
日本家庭科教育学会誌 執筆要項 (Web投稿)

- 執筆の形式
1. 原稿は以下に示すものを作成する。
 - 1) 英文抄録, 2) 和文抄録, 3) 本文, 4) 表, 5) 図, 6) 写真
 2. 和文による原稿は, 原則としてワープロソフトを使って作成する。本文はA 4判用紙(縦置き)で横書きとして, 上下各20ミリ, 左右各60ミリの余白をとり, 22字×40行で印刷する。本文はこの原稿2枚で刷り上がり1ページ相当, 別途, 標題と英文抄録で1ページ相当として換算する。
 3. 英文による投稿原稿は, ワープロソフトを使って作成する。本文はA 4判用紙(縦置き)を使用し, 上下各30ミリ, 左右各20ミリの余白をとり, 44行の設定で印刷する(書体は, 12ポイント・Times New Roman)。本文は原稿1枚で刷り上がり1ページに相当, 別途, 標題と英文抄録で1ページ相当として換算する。
 4. 各ページ番号は下段余白の中央に記し, 行数10・20・30・40の数字を左余白に記入する。
 5. 表, 図, 写真は掲載時の大きさを考え, 枚数を考慮する。判読しにくいほど小さい表, 図, 写真は掲載できないことがあるので留意する。また, 文章量とのバランスも配慮する。
- 標 題
1. 和文の標題は, 研究内容を具体的かつ的確に表すようにし, しかも簡潔に記載する。「……に関する研究」「……の科学的研究」などとすることはできるだけ避け, 標題中に研究内容を的確に示すキーワードを含むように配慮する。
 2. 副題表記の際には, 前後に「—」(ハイフン全角)を入れる。
 3. 投稿論文には, 独立の完結した論文となるよう個別の標題をつけ, 第1報・第2報のような形式をとらないこととする。
 4. 英文の標題において, 「A Study of…」 「Studies on…」 「On the…」 「About the…」 「A Research on the…」 等は不要である。
 5. 英文の標題と副標題の間の区切りは, コロン(;)を用いる。
 6. 英文の標題は, 標題の頭文字と, 冠詞および接続詞等を除く単語の頭文字は大文字で記載する。
- 著者名と
所属機関名
1. 著者が複数の場合には, 当該研究や執筆に対して寄与するところの多い者を, 必要最小限に記載し, 他に何らかの寄与があった人には, 「付記」で謝意を示す。
 2. 著者名は, 姓・名を略さずに記載する。ローマ字つづりは, 姓のすべてと名の頭文字を大文字で記載する。
 3. 所属機関名は, 当該機関の正式名称とする。所在地は, 郵便番号, 番地等を略さずに記載する。
 4. 著者が複数で所属機関が異なる場合は, 著者名の右肩に*, *², *³, *⁴などをつけて所属を区別し, 所属機関名と対応させる。
- 英文抄録
1. 〈研究論文〉には200語程度, 〈資料〉には100語程度の英文抄録をつける。
 2. 英文抄録は, 一人称を使わず, 客観的に書く。標題の内容の繰り返しや常識的な内容は避け, 論文の内容を重点的にとりあげ(目的, 方法, 結果など), 簡潔で明確な表現とする。
- 和文抄録
1. 〈研究論文〉には600字程度, 〈資料〉には400字程度の和文抄録を添える。なお, この和文抄録は学会誌には掲載されない。
-

-
-
2. 著者全員が日本語を第一言語としない場合は、和文抄録を省略することができる。
- 本文 1. 本文は、標題、目的、方法、結果、考察、要約、引用文献、参考文献などの区分を設けて記載することを原則とするが、内容に応じて、別の区分を用いることができる。なお、本文中の見出しは、大見出し 1. 2., 中見出し (1), (2), 小見出し 1), 2) のようにする。
2. 原稿は、原則として、常用漢字、現代かなづかいを用いる。
- 表, 図, 写真 1. 表、図、写真は、本文とは別に 1 葉 1 点として作成し、表、図、写真別に本文に出てくる順の通し番号をつける。作成にあたり、図表は表計算ソフトやワープロソフト、プレゼンテーションソフト等を使用し電子データで作成する。
2. 表の題名は表の上部に、図、写真の題名は図、写真の下部に書く。表、図中の文字は英文にしてもよい。
3. 本文中の表、図、写真の挿入箇所については、図 1、表 1 などの文字を赤字にし、挿入する箇所に明記する。
4. 表、図を他の著作物から転載・引用する場合は、必ず出典を表、図の下に明示する。なお、必要に応じて、原著作者または著作権所有者から使用許可を得ておく。
5. 同一データを表と図で重複させない。
6. 編集上の関係から、文章、表、図について多少の修正を求める場合がある。
- 付記、脚注、引用・参照文献 1. 付記をつける場合は以下の通り。
- 1) 研究助成や謝辞等の追記は「付記」という見出しに統一し、「謝辞」等の他の見出しは用いない。
- 2) 「付記」の中に研究助成や謝辞を含める場合は、論文が採択された後、最終稿提出の時点で記載することとし、投稿時には一切記載しない。
2. 脚注をつける場合は、本文中の該当箇所の右肩に通し番号^{注1)} ^{注2)}…を付し、本文の最後にまとめて記載する。
3. 本文の中で文献を引用・参照する場合には、該当箇所に、(著者名〔姓のみ、連名の場合 2 名まではその 2 名の姓を、3 名以上の場合は筆頭著者名他と記載〕、西暦刊行年、引用ページあるいは参照ページ) を、本文中に著者名がある場合は、その著者名に続けて、西暦刊行年、引用ページあるいは参照ページ) を記す。引用ページあるいは参照ページは省略される場合もある。
4. 「引用文献」または「参照文献」は、本文の最後に一括して記載する。
5. 「引用文献」または「参照文献」の配列は、筆頭著者名(姓)のアルファベット順とする。その際、同一著者の場合は年号順に、さらに同一著者で同一刊行年の文献が複数ある場合は、年号の後に a, b とつけて (1995a) (1995b) のように区別する。
6. 文献の記載方法は以下の通り。
- 1) 雑誌の場合は、著者名・刊行年・論文題・雑誌名・巻号・ページの順とする。著者名の後にピリオド、刊行年は西暦で () でくくりピリオド、論文題の後にピリオド(副題がある場合は、コロンを入れ、副題を書いた後にピリオド)、雑誌名の後にコンマ、巻と号は半角で号は () でくくりコンマ、ページは p や pp はつけず半角で、半角のハイフンではさみ、最後にピリオドをうつ。
- 例) 松田喜美子. (1965). 現代児童の父母観の実態とそれからみた家族関係の診断: 家庭科内容編成の基礎として. 日本家庭科教育学会誌, 6 (2), 74-82.
-

2) 書籍の場合は、著者名・刊行年・書名・出版地・出版社名の順とする。著者名の後にピリオド、刊行年は西暦で () でくくりピリオド、書名の後にピリオド(副題がある場合は、コロンを入れ、副題を書いた後にピリオド)、出版地の後にコロンをつけ、出版社の後にピリオドをうつ。

例) 常見育男.(1959). 家庭科教育史. 東京：光生館.

3) 書籍の特定の部分(1論文や1章など)の場合には、著者名・刊行年・論文(章)題・編集者・書名・論文(章)のページ・出版地・出版社の順とする。著者名の後にピリオド、刊行年は西暦で () でくくりピリオド、論文(章)題の後にピリオド、編集者の後に(編)をつけコンマをうち書名と続け、論文(章)の所在ページはppの後にピリオドをうち半角で、半角のハイフンではさみ、() でくくって示した後にピリオドをうつ。出版地の後にコロンをつけ、出版社の後にピリオドをうつ。

例) 和田典子.(1980). 家庭科教育の現状. 大学家庭科教育研究会(編), 現代家庭科研究(pp.4-13). 東京：青木書店.

7. ホームページからの引用・参照文献については、URLおよびアクセスした日付がわかるように示す。

論文の投稿

1. 投稿規程の4に則って、Web投稿審査システム Editorial Manager (<https://www.editorialmanager.com/jjahee/default.aspx>) にアクセスし、投稿する。

2. 掲載が確定した後に、英文抄録、和文抄録、本文、表、図、写真のデータを電子メールに添付して事務局に提出する。

(附 則) 本要項は、2001年4月1日に改正し、2001年4月1日以降の投稿論文から適用する。

(附 則) 本要項は、2004年6月25日に改正し、2004年6月25日以降の投稿論文から適用する。

(附 則) 本要項は、2009年7月1日に改正し、2009年7月1日以降の投稿論文から適用する。

(附 則) 本要項は、2014年5月1日に改正し、2014年5月1日以降の投稿論文から適用する。

(附 則) 本要項は、2016年7月8日に改正し、2016年7月11日以降の投稿論文から適用する。

(附 則) 本要項は、2023年2月19日に改正し、2023年4月1日以降の投稿論文から適用する。
